上士幌高等学校ユネスコスクール実践活動事例

「地域に根ざしたＥＳＤ活動の実践」

北海道上士幌高等学校
校長　山﨑恒平
担当　上村　剛

１　本校の概要、ＥＳＤの特徴

本校は、北十勝にある１学年２クラスの小さな学校です。上士幌町は熱気球で有名な町であり、本校は全国でも珍しい熱気球部があります。恵まれた自然環境の中、多くの活動を通して地域を大切にしようとする心を育てています。

平成２６年度にユネスコスクールに認定され、地域社会の活性化を主なテーマとしてＥＳＤ活動に取り組んでいます。

２　活動全体計画（地域学習、ユネスコスクール間連携）

月	実践内容
４月	北海道、十勝の歴史を学ぶ（上士幌学）
５月	上士幌の歴史を学ぶ・上士幌の畜産を学ぶ（上士幌学） 町内空き缶クリーン作戦への参加（ボランティア） 世界一大きな授業の実施（生徒会）
６月	上士幌の環境（音更川、水生昆虫と水質調査）を学ぶ（上士幌学）
７月	北海道の食文化・アイヌの食文化を学ぶ（上士幌学）
８月	留辺蘂高校とのＥＳＤ交流会（生徒会） 北海道バルーンフェスティバルへの参加・協力（熱気球部・ボランティア） 町民仮装盆踊り大会への参加（生徒・保護者・教員） 北十勝の食材・上士幌の食材について学ぶ（上士幌学）
９月	「異世代交流会」の取り組み（熱気球部・家庭部・吹奏楽部） 観光・ふるさと納税について学ぶ（上士幌学）
１０月	上士幌の食にかかわる産業について学ぶ（上士幌学）
１１月	上士幌の特産品開発　調理実習・プレゼン準備（上士幌学）
１２月	特産品の開発のまとめ（上士幌学）
１月	販売実習（上士幌学）
２月	上士幌ウィンターバルーンミーティングへの参加（熱気球部）
３月	留辺蘂高校とのＥＳＤ交流会（生徒会）

３　活動事例（地域学習、ユネスコスクール間連携）

（１）学校設定科目「上士幌学」の実施

今年度より３年生の選択授業において「上士幌学」を設置し、郷土の自然や歴史、食や観光について総合的に学ばせています。この科目は教科横断的なカリキュラムを組み、理科・社会・家庭科・商業の先生達が連携して授業を行っ

ています。先生達による授業のほか、町内にいる外部講師による講話や現地視察、調理実習などの体験的な学習も多く行っています。

（２）北海道バルーンフェスティバルへ参加、協力

北海道バルーンフェスティバルは８月に行われる上士幌を代表するイベントです。熱気球部員達は競技への参加を通して、熱気球の魅力や地域の活性化について学びます。また、大会運営のボランティアとして他の部活動の部員達も協力しています。

上士幌町や上士幌高校にとって、気球をいかに持続発展させていくかということは大きな課題であり、そういった観点からもまさにＥＳＤの取り組みだと言えます。

（３）「異世代交流会」の取り組み

上士幌町老人クラブと家庭部・熱気球部・吹奏楽部との交流事業です。老人クラブの方々に高校に来ていただき熱気球の体験搭乗や小物づくり、レクリエーションや演奏会などを通して異世代間の交流を行います。このような取り組みを通してコミュニケーション能力などを身につけます。

（４）留辺蘂高校とのユネスコスクール間交流の実施

昨年度は本校の生徒会執行部が、留辺蘂高校を訪問しましたが、今年度は留辺蘂高校の生徒会のみなさんが本校に来てくれました。お互いのＥＳＤ活動内容の報告やＥＳＤについての講義、そして本校の熱気球にも搭乗してもらいました。

この３月には、本校の新執行部が留辺蘂高校に行き、さらに交流を深めていく予定です。

４　成果と課題

ユネスコスクールに認定され３年が経過しようとしていますが、今年度から「上士幌学」を実施したことにより、ようやく本校におけるＥＳＤ活動の軸が見えてきたように思います。今後も「地域に根ざしたＥＳＤ活動の充実」をテーマに、より多くの生徒にふるさとの魅力を学び、それを幅広く伝えていけるような取り組みを実施していきたいと考えています。

その一方で、ユネスコスクールの理念やＥＳＤの考え方は、まだまだ本校に浸透していないのが現状です。校内研修会などを通して、より多くの先生方に理解してもらい、学校全体で日々の教育活動とＥＳＤとを結びつけて取り組んでいけるよう、できることから始めていきたいと考えています。